

2. ノロウイルスの消毒法

1) ハイター消毒後の便座の水拭きについて

ノロウイルス患者使用後の便座の消毒としては、ハイター（1000ppm：市販ハイターの40倍希釈）を用いた十分な消毒後に水拭き、またはアルコール清拭を行うことが理想的です。しかし、人的に困難な場合はハイター消毒後の水拭きを省略することも可能です。ただし、この場合、清拭後のハイター液が完全に乾燥していることが条件となります。完全に乾燥しますとハイター液中の塩素は揮発しますので無害ですが、湿っている状態では皮膚炎を起こすこともありますので留意して下さい。また、頻繁にトイレ消毒を行う場合は、塩素臭気排除のためトイレ室内の換気も忘れずに行ってください。

*注意：長期間水拭きを省略しますと、便座の変色および金属部分の腐食は避けられません。

*汚染物を消毒する際の注意：吐物やオムツを処理する場合は、手袋とマスクを着用し接触や飛沫による二次感染を防ぎましょう。また、処理後はセッケンと流水で十分に手洗いを行ってください。

2) 環境消毒について

ノロウイルス感染は「食中毒」によるものと、「接触感染やエアゾル感染」などにより感染する二面性を持ちます。また、感染力は、きわめて強く少量のウイルス（10～100個）でも感染が成立します。特に飛散した患者の嘔吐物や下痢便は乾燥してもしばらくの間、感染性を保持し二次感染の原因となるため他の利用者が頻繁に触れるテーブルや椅子のハイター消毒（200ppm：市販ハイターの200倍希釈）は、流行期の二次伝播防止に効果的です。一方、非流行期は水拭き、またはマイペットの使用で十分です。

3) 食器の消毒について

ノロウイルス感染症は、嘔吐、下痢などの症状が消失しても通常3週間以上に亘り便中にウイルスが排泄されます。さらに、免疫力の低下した小児や高齢者などでは1～2ヶ月以上の長期にわたる場合もあります。また、嘔吐の症状が無く、下痢症状を有する患者では排泄後にトイレットペーパーを介して手指にウイルスが付着し汚染されます。介護を必要とするご老人の多くは手指消毒を徹底することが困難であることが多いため二次的に食器や手摺などが汚染されます。このため、流行期には嘔吐または下痢の症状の有無に関わらず食器を消毒することが理想的です。